H31.2.20　開催

食の安全安心セミナー「食品中の放射性物質～震災から７年の歩み」
質疑応答概要

〇事前質問の紹介

Ｑ．消費者目線で食品を守る上で，未来の子どもたちに伝えていくためには，実効性が伴わなければならないと考えます。（意見）

Ａ．（消費者庁　井河氏）

非常に鋭い意見で，消費者庁も全く同じことを考えています。子どもやその保護者に伝える取り組みが必要だろうということで，消費者庁は３年前から少しずつ取り組んでいるところです。

具体的には，全国３箇所で行われる，夏休みの宿題イベントに消費者庁が参加して放射性物質のこと，本日お話したようなことを説明しています。２５００名位の来場者があり,色々な方とコミュニケーションを取りながら行っています。

その中で，小学校低学年位の子どもたちは，震災後に生まれた子がほとんどでした。セミナーを受けても「そんな歴史があったんだな」と歴史の授業を受けているような反応でした。一方で保護者の方は，ちょうどその子たちを育てていた時で，（放射性物質の）話をその時聞きたかったという反応を受けました。今後もこのような取り組みは絶対に必要だと思っています。

また，学校の栄養士，給食関係者対象のセミナーからも消費者庁に（講演の）依頼が来ていて対応しています。色々な角度から子どもたち，その保護者に正しい知識を身につけていただき，考えていただく必要があると思っています。

Ｑ．原発事故に伴い発生した汚染物質の（最終）処分地が決まっていない現状をどのように認識しているか。

Ａ．（消費者庁　井河氏）

放射性物質によって汚染された廃棄物，例えばごみ焼却灰や下水の汚泥等ですが，そういったものには，ひとつの基準があり，８千Ｂｑ／ｋｇ以下のものは，通常の廃棄物として処理され，８千Ｂｑを超えるものは，国が定める方法で処分する指定廃棄物として処理されることになります。ご質問は，非常に現実的な問題だと思います。

あくまでも最終処分の選定や今後どうしていくのかといったことは，環境省の役割ですので，消費者庁としての見解は，差し控えさせていただきたいと思います。

ひとつ気になる点として，最終処分場を設置するか否かの合意形成・住民説明をどのように進めていくのかということに課題があるのではないかと思います。合意形成は色々な意見を聞いてステップを刻んでいく必要があって，まさにそこにはコミュニケーションが必須になります。そういったコミュニケーションのプロセスをどうしていくかということは大きなクリアすべき課題だと思います。

消費者庁としては，食品のリスクコミュニケーションを推進している立場から，色々な人の意見を聞いて，自分の意見を発表していくという場を作り，そのような文化を広げていけたらよいと考えています。

（福島県立医科大学　佐藤先生）

町内会のごみ置き場を決めるだけでも大紛糾です。誰でも自分の家の前にごみを置かれたら怒るのは人間の素性です。でも，どこかで合意形成しないといけない。その後，燃料というもっと大きな廃棄物も出てくる。それは外国に持って行こうという話もありますが，これも大きな問題です。

電気だけ使ってあとは知らないというのは良くないこと。どこかで真面目に考えないといけない，誰かが背負わなければいけない。お金を入れることで解決するのか，住民の合意形成をするのか，ずっと問題になると思いますし，１００％の解決にはならないと思います。感情の問題にも折り合いをつけなければいけないと思います。

Ｑ．宮城県内の汚染物質の現状と今後の方針を知りたい。

Ａ．（食と暮らしの安全推進課）

放射性物質汚染廃棄物は，現状としては，宮城県内に３万９,４５８ｔあり，そのうち国が処理することになっているのが３,４１３ｔ，それ以外は市町村などが処理することになっています。

今後の方針ということでは，今は各地域でどのように処理を進めていくかということが検討されていますが，仙南，黒川，石巻，大崎の４つの圏域では焼却処理をするということで試験焼却が行われています。登米市ではすき込み，栗原市ではたい肥化が検討されていると聞いています。

Ｑ．イノシシは農業被害などもあって捕獲しているので，放射性物質が含まれているということで，検査して出荷してはどうか。

Ａ．（食と暮らしの安全推進課）

ニホンジカの場合では，宮城県内では出荷制限がかけられていて，出荷できないことになっていますが，石巻の事業者で全頭検査して大丈夫なものは出荷しているということがあります。ですので，条件が揃えば，同様のことがイノシシでもできないことはないと思います。

ただし，石巻地域のニホンジカは，基準値を超えるものがほとんどないということがあり，検査しても問題のあるものは出てこないので出荷できているということを聞いています。検査して基準値を超えるものが沢山出る地域では事業として成り立たないということもあります。

実際イノシシを検査して出荷してみたいという場合は，まずは，そこのイノシシがどういう状態なのかをお調べいただくのがよいかと思います。その上で出荷できるものが沢山ありそうだということになれば，お近くの市町村にご相談いただき，そこを通じて計画を立てた上で，県を通して国の原子力災害対策本部に計画が認められれば，その分については，しっかり管理した上で出荷してもよいということになるかも知れません。

シカの場合は以上のようなことで，一部出荷してもよいということになっていますが，イノシシについて，今のところ，事業をしたいという動きも具体的になっていないため，出荷ができる状態にはなっていません。

○当日の質疑応答

Ｑ．資料１（消費者庁資料）の２３ページのグラフにおいて，２０１４，１５年あたりで数字が上昇していますが，なぜでしょうか。アンケートの項目を変えたのではないかと思いますが。

Ａ．（消費者庁　井河氏）

直接的な原因は不明。このアンケートは，ずっと同じ集団をずっと追っているわけではないため，どうしても集団が変わっていきますし，インターネット調査なので，その都度（数字が）上がった・下がったという風に比較するものではないと思っています。

この数字が上がった時期というのは，ある漫画誌で鼻血が出るという描写が話題になった頃と重なっています。そういった話題があったことも，それが全てだとは言いませんが，ひとつの要因なのかもしれないと見ています。

アンケートの聞き方を変えたということはありません。

Ｑ．行政のほうでは，膨大な食品の検査をしているということで，検査の縮小に関するリスコミをやったような報道を見たが，宮城を含めてそのまま継続している。その後はどうなったのか。

Ａ．（消費者庁　井河氏）

２年前までは，検査をしてある程度数値が高いものを集中的に行っていました。その集中的に検査するものは，各自治体で決めてくださいという形でした。かなり検査結果の知識が固まって，資料１の１９ページに，栽培・飼養管理が困難な品目群というのがありますが，管理が可能な品目群とそのでないものに品目群で分けて，管理困難な品目群を集中的に検査してくださいと，検査のバランスを変えて，ある程度実態に沿った検査ができるようにしています。

ただ，現場，例えば学校給食では，毎回検査しないと保護者から何か言われるといったことがあり，そのような場合，毎回検査しないといけない。一方で基準値を超えるようなものは全く出てこないということで，正直検査をやめたいと思っている方もいる。

そこを如何に説明していくか，コミュニケーションして納得していく形にしていくということは，まだまだこれからだと思っています。

今後も検査自体をどうしていくのか，徐々に数値が下がってきている状況ですので，その状況に合わせてさらなる見直しというのはあると思っています。

Ｑ．資料１の２１ページ，マーケットバスケット方式による調査，陰膳調査で，平成２４年２～３月は，福島より岩手の方が高い数値なのはどうしてか。また宮城県の数値があれば教えてください。

Ａ．（消費者庁　井河氏）

なぜ岩手の方が高いのかということは何とも言えないところ。いずれにしても全く問題のない値です。

食品と放射能Ｑ＆Ａ５１ページにマーケットバスケット方式の調査結果が載っています。宮城県の平成２４年９～１０月の数値として「０．００５７ｍＳｖ／年」と出てい

ます。ただし，これが一時的なのもなのか，その後すぐにもっと低い値が出ていますので，全く不思議な数値ではないと思います。

（福島県立医科大学　佐藤先生）

３月１１日に地震が起きて，仙台方面に原発から出たプルームという放射線を含んだ空気が南風に乗って移動したのは，翌１２日です。１２日にベントで出したものが南風に乗って，南相馬市～亘理を通って仙台市の端をかすめて女川の方に行って太平洋に落ちたのです。これのよかったところは雨が降らなかった，乾性降灰といって，早い時期に大きいものが来たがそのまま素通りして，海に落ちたので実際，土壌沈着は少なかった。

その先で，陸側に風が吹いて少し岩手に行ったということはあり得るとは思います。ただ，大きい排出は一回だけで，何回もプルームが来たということはありません。

あとは，地形，風向きによってだいぶ変わるので，複雑な経路を示しています。

Q．歳をとると免疫が下がるというのはありますが，何か食べ物で手軽にお勧めというものはありますか。

A．（福島県立医科大学　佐藤先生）

食品は毎日のことでなかなか完全にコントロールすることはできません。これが良い・あれが良いというのは，実はメディアレベルの話で，僕らはほとんど把握はしていません。

メタボというのは当然良くない，あとはやせすぎも良くない。これは統計を取ると出てきます。ではなぜメタボが悪いかというのは，そこに糖尿病が隠れていたり，不規則な食生活等があります。中肉中背が一番よいとされています。

あとは運動のし過ぎもよくありません。オリンピック選手が長生きかというと，やや短命になったりしている。やはり中ぐらいがちょうどいいということになります。リスクについては話せるのはこのような所です。

ただ，いまや日本人の２人に１人はガンになりますので，その時びっくりしないようにガンになったらどうするかくらいは考えておくべきかなと思います。

本日の話の中で，被爆の情報で苦しんでいる人は多いですよという話をしましたが，ガンの治療ほど情報で苦しんでいる人は多いです。あの先生はこう言っている，この先生はあの治療法がある，こういった先端の治療法があるといって，これから治療が始まるのに，情報ですでにぐったりしている人がいます。

ガンになって落ち込むのではなく，情報収集は冷静に行っていただくのがいいかと思います。健康な時にシミュレーションしておくというのは難しいかもしれませんが，例えばガンから生還したサバイバーの人の話を聞くというのは非常に大事だと思います。